

—お知らせ—

理事会新体制について

今年度の総会で承認された理事の増員について、以下の2名が新たに理事に就任されていますので、お知らせいたします。

理事 小泉 洋吉
篠原 眞清

お知らせが大変遅くなり申し訳ございません。令和3年5月に2名が加わって以来今日まで、法人の今後の運営や組織の在り方について検討を重ねてきました。

特に調査支援業務（北杜市内遺跡発掘事業）は、ご承知の通り当法人にとって要となる受託事業です。もちろん、理事会の折に事務局や調査員から報告を受け、課題解決や職場環境の改善などに取り組んできました。

取り組みの一環として、去る令和3年10月2日（土）に理事会と調査支援業務に従事している職員との間で意見交換の場を設けました。理事会が現場の声を直接聞く機会にもなり、また新たな課題も見えてきました。

このように組織改革の必要性を再確認する中で、受託業務に携わる理事を選任し、常勤の理事として実務的に関わっていくことが必要なのではないかということ、更に調査支援業務運営委員会（仮）を設置し、そこへ常勤の理事も委員のひとりとして加わることで、理事会への迅速な働きかけや課題解決につなげていくことができ、より働きやすい職場環境を作っていくことになるのではないかとということ意見がまとまり、動き始めています。

これに伴って定款の変更等も必要になることと思います。総会でお諮りいたしますので、会員の皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思います。

令和3年度 活動報告

○市指定史跡除草管理業務

明野町内にある4ヶ所の史跡（屋代氏館跡土塁、穴塚古墳、馬検所跡、長清寺古寺跡）の整備（主に除草作業）について、郷土研究部の方々の協力をいただきながら10月まで実施しました。長清寺古寺跡は毎年長清寺の檀家さんたちが年間5回程度の美化清掃活動を実施して下さっています。



屋代氏館跡土塁



馬検所跡



穴塚古墳



長清寺古寺跡

○あけのお宝マップ作り

明野にある、文化財には指定されていないけど、地域の人々にとっては大切なもの、大切な景色、放っておけば忘れ去られてしまいそうな記憶。そんな色々なお宝にスポットを当てて、後世に繋ぐために地図に記しておきたい。そんな活動に企画から参加していただく企画委員を募集し、企画委員会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、度々企画委員会の開催延期を余儀なくされましたが、少しずつマップ作りを進めてきました。結果的に、年度をまたいでの事業になってしまいましたが、マップの完成を楽しみにお待ちください。



令和3年度の発掘調査

今年度の調査支援業務が3月28日に北杜市に成果品を納入し、無事終了しました。

一道下遺跡では4月の発掘開始当初から布目瓦が出土し、古代の官衙的様相が強い遺跡であることが確認されていました。発掘調査が進むにつれ、大形の掘立柱建物や礎石建物など一般的な農村としての集落遺跡にはみられない遺構が検出され、石帯や硯・焼き印など一般民衆が使うことのない装飾品や道具が出土しました。石帯は古代の役人、すなわち官職を得た人々だけが身に着けることを許されるもの、硯は古代の律令体制下における政治・行政では欠かせない道具です。律令体制下における行政は、現在の行政の原型ともいえる文書主義に基づいていました。朝廷からの政治・行政上の命令と地方からの税の納入・報告は全て文字・文書を使って行われていました。一道下遺跡の石帯と硯は、この遺跡が当時の行政の一端を担っていたことを証明するものです。このような遺跡に、馬牛の飼育・管理に使用されたと思われる焼き印が残されていたことは、当時の北巨摩地域において政治・行政において牧が重視されていたことを示すものと言え、近年にない大きな考古学的発見といえます。

中山工区の諸遺跡の調査成果も、古代の北巨摩地域を考えるうえで大きな発見であったといえます。40haにおよぶ開発区域内からはいくつもの遺跡が発見されています。この遺跡群においても、一道下遺跡で発見されたものと似通った比較的大形の掘立柱建物が残された遺跡がある一方で、鉄の道具を製作したと思われる痕跡も検出されています。この遺構・遺物の様相からみて、中山工区内の遺跡群は古代の開拓・開発、特に荘園開発と関連するものとみられ、一道下遺跡の行政の拠点としての性格と考え合わせると、今年度の発掘調査の成果は北巨摩地域の古代を考えるうえで欠かせない資料となることが予想できます。

来年度以降は、これらの遺跡の整理業務が始まります。整理業務では遺構の詳細についての記録とな



一道下遺跡 灰釉陶器蓋の出土状況

る図面・写真類の整理・編集と遺物の観察・記録化を経て、発掘調査報告書の作成準備が行われます。遺跡は今後の工事において永久に失われてしまいますが、NPO職員が作成に加わる発掘調査報告書が唯一の記録として後世に残されます。発掘調査報告書の作成において、どこまで遺構・遺物の価値を明らかにでき、どう伝えることができるかが発掘調査報告書の作成業務の主眼といえます。来年度は、整理業務の経過についてもお伝えできると思います。その中でどのような成果が明らかにされるのか、会員の皆さんにも注目していただければと思います。

＝会員募集＝

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に活動して下さる方、ご賛同いただける方を募集しています。

こんなことをやってみたい人は、ぜひ！

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金 1,000円

年会費 2,000円

かやぶんかわら版 第89号

令和4年3月15日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所
(かやぶん)

TEL/FAX 0551-45-7672

URL <https://kayabun1.wixsite.com/oursite>

e-mail kayabun@hotmail.co.jp